

日本動物学会九州支部（第78回）

九州沖縄植物学会（第75回）

日本生態学会九州地区会（第70回）

三学会合同大会 2026

（福岡）

プログラム

会場： 福岡大学 理学部（18号館）・中央図書館



スケジュール

5月23日 (土)

11:15～11:45	九州沖縄植物学会委員会	B会場
12:00～	受付 ポスター掲示 H01～H13	理学部 (18号館) ホワイエ ポスター会場
13:00～14:30	一般講演 (口頭発表)	A・B会場
14:40～15:10	高校生ポスター発表 (奇数番号)	ポスター会場
15:10～15:40	高校生ポスター発表 (偶数番号)	ポスター会場
16:00～16:30	生態学会九州地区総会	A会場
	九州沖縄植物学会総会	B会場
	動物学会九州支部総会	C会場
16:40～17:40	特別講演 仁田坂 英二 (九州大学大学院理学研究院) 「アサガオの遺伝資源 — 日本独自の園芸植物からモデル植物へ」	中央図書館多目的ホール
18:00～20:00	情報交換会	MASTERS CAFE 福岡大学店 (中央図書館1階)

5月24日 (日)

8:30～	受付	理学部 (18号館) ホワイエ
9:00～12:00	一般講演 (口頭発表)	A・B会場

受付

- (1) 受付は、23日(土)は12:00から、24日(日)は8:30から理学部 (18号館) 2階ホワイエに置きます。受付では名札をお受け取り下さい。会場では名札の着用をお願いします。
- (2) 当日申し込みは以下の参加費を受付にてお支払いください (現金のみ)

<大会参加費>

一般：4,000円

学生：2,000円

*小・中・高は参加無料

<情報交換会参加費>

一般：4,500円

学生：3,000円

*酒類が出ますので、20歳未満の方の参加はご遠慮ください。

クローク

クロークは理学部 (18号館) 2階講義室1826で以下の時間帯に利用可能です。荷物の引き取りは必ず時間内をお願いします。

5月23日(土) 12:00～16:40

5月24日(日) 8:30～12:30

口頭発表

- (1) 一般講演（口頭発表）の時間は、質疑応答を含めて15分間です。終了時刻の5分前に1鈴、3分前に2鈴、終了時に3鈴を鳴らします。時間厳守でお願いします。
- (2) 次演者は次演者席に座り、パワーポイント等の発表ファイルを開いた状態でパソコンを持って待機して下さい。本大会では切替器を用いませので、前演者の発表が終わり次第、パソコンを直接接続して下さい。5月23日12:00～13:00、5月24日8:30～9:00に各会場で試写の時間を設けていますので、動作確認にご協力ください。
- (3) 発表が終わった方は、次の発表の座長をお願いします。
- (4) 口頭発表は、パソコン用液晶プロジェクターを用いて行ないます。発表用パソコンを各自ご持参下さい。プロジェクターの接続端子はHDMIです。Apple社製品など特殊な接続アダプターが必要な場合には各自ご持参下さい。
- (5) レーザーポインタ、ピン型マイクロフォンを会場に準備しますので、お使い下さい。

高校生ポスター発表

- (1) ポスターは23日(土)の13:00までに所定の位置に掲示して下さい。ポスター掲示用のピンは会場に準備していますので、ご自由にお使い下さい。
- (2) ポスターの最大サイズはA0（縦1189 mm×横 841 mm）です。
奇数番号は14：40～15：10、偶数番号は15：10～15：40に発表者がポスターの前で説明を行なって下さい。
- (3) ポスターは23日(土)の16:00までに撤収して下さい。

大会本部・休憩室

- (1) 大会本部は理学部（18号館）2階講義室1826になります。
- (2) 休憩室は理学部（18号館）2階講義室1821になります。

情報交換会

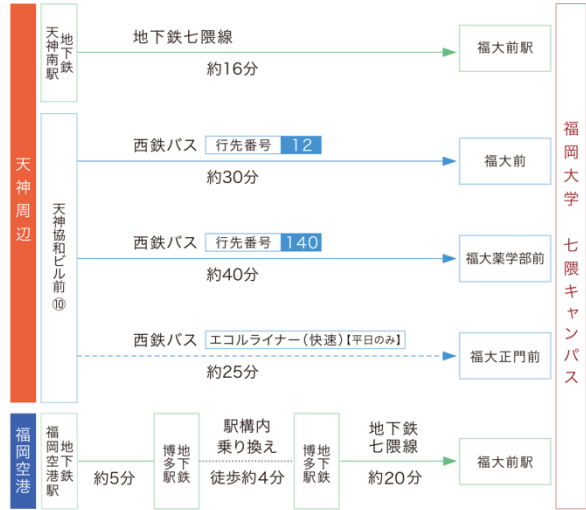
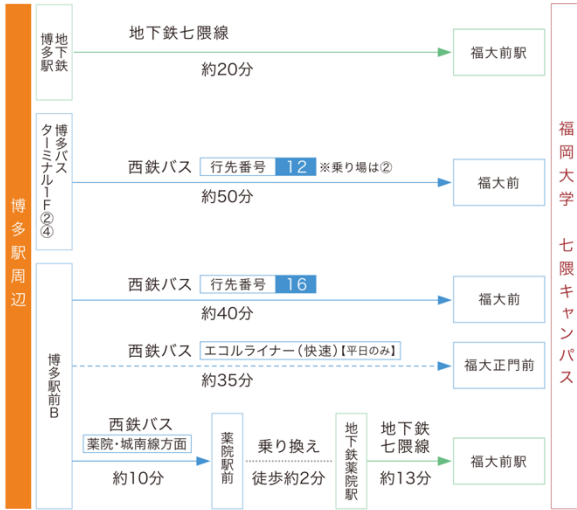
情報交換会は5月23日(土)18：00から、中央図書館1階のMASTERS CAFE（福岡大学店）にて行ないます。

昼食

5月23日(土)は14時まで大学構内の第一食堂が利用できます。次ページキャンパス案内の学会館内にあります。24日(日)は学内の全食堂・売店が休業で利用できません。大学近辺のコンビニエンスストアや飲食店をご利用ください。

会場までの交通案内

公共交通機関での来場をお勧めしております。詳細は次ページをご覧ください。大学構内の外来者駐車場が工事中でほとんど使えません。車で来られる方は、恐れ入りますが近隣のコインパーキングをご利用ください。



※時間帯によって交通混雑が予想されますので、所要時間は目安としてください。
 ※バスの行先番号が同じでも行先が異なることがありますので、バス正面の行先(経由地)をご確認ください。
 ※公共交通機関の運行状況に変更が生じる場合があります。最新の情報については、以下ウェブサイト等からご確認ください。
 ●地下鉄に関する情報 …… 福岡市交通局 <https://subway.city.fukuoka.lg.jp/>
 ●バスに関する情報 …… 西鉄バス <https://www.nishitetsu.jp/bus/>

【高速道路】

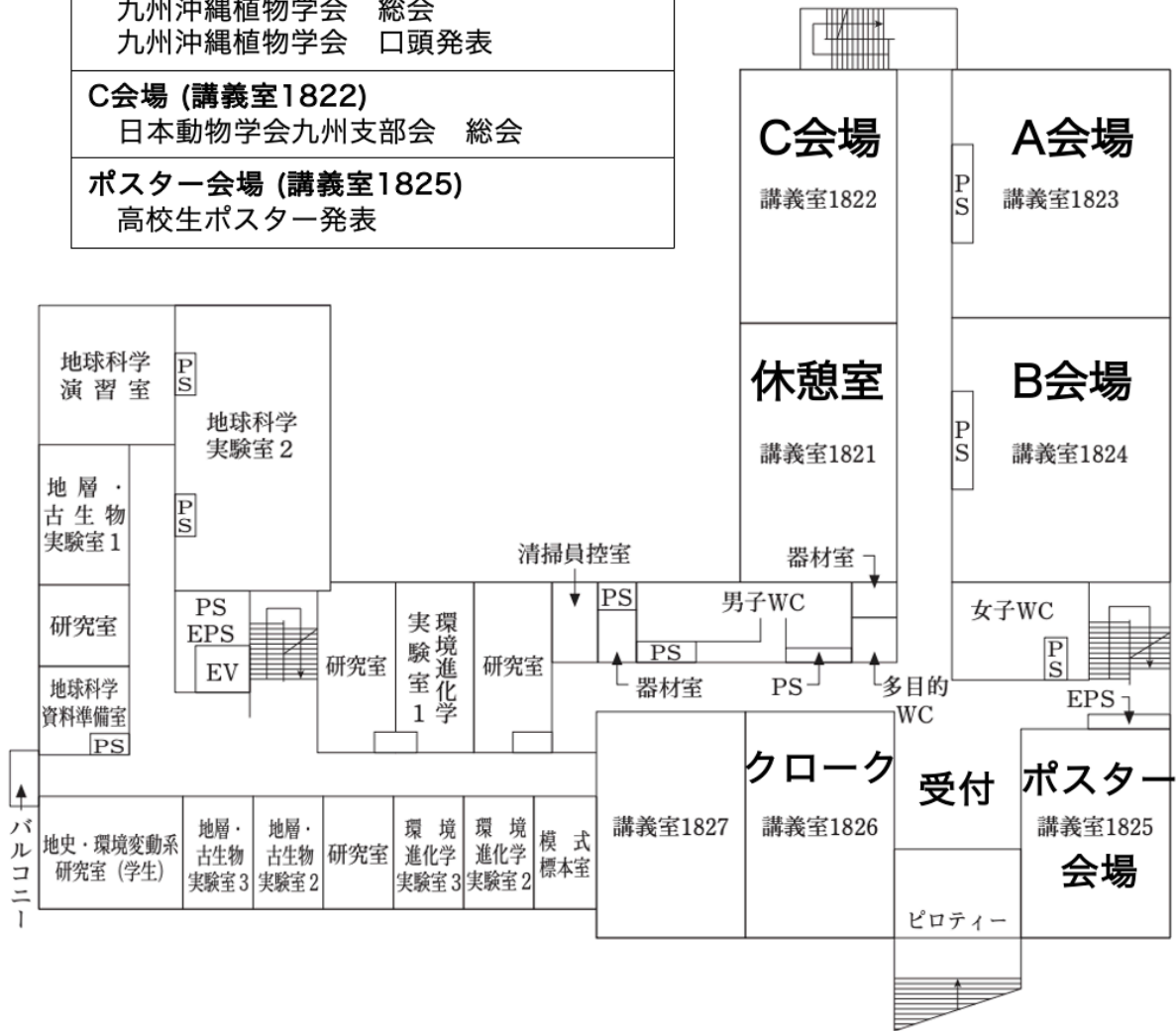
唐津方面からの場合
 西九州自動車道(福岡前原道路)から都市高速道路環状線に入ります。野芥ランプで降りた後、福大トンネル出入口の手前を右折し、梅林中学校入口を左折します。500mほど直進した後、福岡大学病院東口交差点を直進します。
 北九州および福岡県外(大分・熊本方面など)からの場合
 九州自動車道の太宰府IC(インターチェンジ)から都市高速道路に乗り、月隈JCT(ジャンクション)を左折します。堤ランプで降り、国道202号線(福岡外環状道路)を2kmほど直進して福大トンネル出入口手前から右折し、福岡大学病院東口交差点を右に入ります。

福岡大学 キャンパス案内図



大会会場：理学部（18号館）2階

A会場 (講義室1823) 日本生態学会九州地区会 総会 日本生態学会九州地区 口頭発表 日本動物学会九州支部会 口頭発表
B会場 (講義室1824) 九州沖縄植物学会 委員会 九州沖縄植物学会 総会 九州沖縄植物学会 口頭発表
C会場 (講義室1822) 日本動物学会九州支部会 総会
ポスター会場 (講義室1825) 高校生ポスター発表



プログラム

高校生ポスター発表 ポスター会場

5月23日（土） 14:40～15:10 奇数番号 15:10～15:40 偶数番号

H01

オカダンゴムシの交替性転向反応の仕組みを探る

* 姫野愛菜, * 椎原悠貴 (大分舞鶴高校・科学部生物班)

H02

自家栽培のバジルを用いた匂い成分による害虫忌避効果の検証

* 倉掛佳奈 (福岡工業大学附属城東高等学校 科学部 生物班)

H03

メダカの学習能力の変化について～時間経過と学習能力の変化について探る～

稲永竜也, 辻真治 (福工大城東高校・科学部・生物班)

H04

アオサ量の違いによる硫化水素の発生と溶存酸素量の変化について

* 辻真治, 吉瀬悠希 (福工大城東高校・科学部・生物班)

H05

チョウの人工給餌効率の改善を目的とした誘引化学物質の探索～4-ケトイソフェロンにおける誘引効果と最適濃度の検証～

* 永井功生, 田中崇二郎, 高畑翠, 木谷彩, 三好陽愛 (広島国泰寺高校・科学部生物班)

H06

ウミニナの水質改善能力の水族館活用を目指して

* 阿部柚希, * 國分心愛, * 謝騰輝, * 中村玲那 (香住丘高校・生物部)

H07

魚骨由来ハイドロキシアパタイトとポリピロールの複合化による導電性骨再生材料の開発

* 石丸悠羽, * 井手琥太郎, * 鮎子田大樹, * 三木春和 (香住丘高校・化学部)

H08

イベリアトゲイモリの粘液の抗菌作用について

* 稲葉心寧, * 佐藤陽乃, * 中野日葵, * 永渕沙来 (香住丘高校・生物部)

H09

みかんから抽出したペクチンによるマイクロプラスチックの吸着

* 津川隆之介, * 金澤瑛斗, * 中山廉太郎, * 林優希 (香住丘高校・生物部)

H10

大分県大分市七瀬川自然公園周辺におけるコウモリ類の種の推定および音声数と気象要素の関係

*河野愛梨, *阿部穂乃花, *伊藤颯佑, *平松大和, *増田愛大 (大分雄城台高校・科学部), 安部慶一郎 (大分雄城台高校・教諭)

H11

ナガミヒナゲシの花型の謎～種分化？投資戦略？～

*フラワー姫瑠, 土橋一晴 (明治学園中学高等学校・自然科学部)

H12

外来植物カミヤツデの分布拡大に関する研究

*内田壮亮 (明治学園中学高等学校・自然科学部)

H13

修猷館高校所蔵の剝製について

*武内珠華子 (福岡県立修猷館高等学校・生物研究部)

口頭発表 A会場 (動物・生態)

5月23日 (土)

13:00 AE01 ロボット2体を用いたチゴガニのウェービング同期の解析

山口実希 (長崎大院・総合生産), *岡田二郎 (長崎大・環境)

13:15 AE02 チゴガニ個体間における社会行動と心拍の関係

*高橋萌々 (長崎大院・総合生産), 岡田二郎 (長崎大・環境)

13:30 AE03 深海生物もプラスチックに汚染されているのか?
～オオグソクムシのプラスチック誤食実態に迫る～

*和泉匠真 (長崎大学大学院), 田中章吾 (長崎大学大学院), 八木光晴 (長大・水産)

13:45 AE04 深海底ケーブル由来の静磁界に対するオオグソクムシの行動・生理応答

*田中章吾, 和泉匠真 (長大院・総合生産科学研究科), 八木光晴 (長大・水産)

14:00 AE05 宮崎県内の外来タンポポの分布と形態の変異
～市民参加型調査を通じた広域データの解析～

*河野菜々美 (日大・文理学部), 満行知花 (宮崎国際大・教育)

14:15 AE06 宮崎県に生育するオオクシバタンポポの由来に関する検討

*満行知花 (宮崎国際大・教育)

5月24日 (日)

9:00 AE07 ミツバチの尻振りダンス音刺激に対する触角定位は日齢と巣内役割に依存する

田中花菜¹, 一木輝久², 高橋伸弥³, Farina W.M.⁴, *藍浩之¹

(1 福岡大学・理・地球圏, 2 同・理・応用数学, 3 同・工・電子情報, 4 Univ. Buenos Aires, Argentina)

9:15 AE08 クロマルハナバチにおける蜜源へのリクルート行動の可能性

*高森羽響¹, 光畑雅宏², 藍浩之¹

(1 福岡大学大学院・理, 2 千葉大学・園芸学研究院)

9:30 AE09 マツヘリカメムシ越冬成虫のクロマツ雄球花への集合要因および共生細菌獲得経路の探索

*武原菜々花 (九州大・生物資源環境), 松永孝治 (森林総研), 細川貴弘 (九州大・理), 渡辺敦史 (九州大・農), 久米篤 (九州大・農)

9:45 AE10 ゴミグモの体色とゴミ装飾の色彩の類似性検証

*伊達堅太郎 (九州大・システム生命), 高須賀圭三 (九州大・理)

10:00 AE11 電気刺激と pERK 免疫蛍光染色によるカマキリ前胸神経節運動ニューロン活動観察

*兵藤凌央 (九大・院システム生命), 山脇兆史 (九大・院理・生物科学)

10:15 AE12 カマキリのグルーミング行動にみられる優先順位

*下之菌諒真 (九大・院システム生命)、山脇兆史 (九大・院理・生物科学)

10:30 AE13 ハヤブサの高速空中戦における高機動攻撃

*菊地デイル万次郎 (福岡大学)、熊井琢人 (東京農業大学)、森谷陽菜 (東京農業大学)、石川真理子 (STOOPER)、石川和也 (STOOPER)

10:45 AE14 トイレはシャイなカワネズミの社交場!?

*坂田拓司 (熊本野生生物研究会)

11:00 AE15 ショウジョウバエ卵形成過程におけるCBPによるヒストンラクチル化と卵母細胞指定の制御

*中山敬介, 齋藤大介, 林良樹 (九大・動物発生)

11:15 AE16 齧歯類精子における4回膜貫通型タンパク質MS4A5の解析

*矢津田双葉, 金子たかね (九州産業大・生命科学)

11:30 AE17 マメダコの雄が交接腕を守る行動は繁殖期の前から発現する

*晴木啓二郎 (長大院・総合生産), 山手佑太 (長大・総合生産), 竹垣毅 (長大院・総合生産)

11:45 AE18 オオイトサンショウウオ *Hynobius durni* とニホウサンショウウオ *H. nihoensis* の種間交雑の可能性

*永野昌博・宮井裕貴・古田歩夢 (大分大・理工)

口頭発表 B会場 (植物)

5月23日 (土)

13:00 P01 ミヤコグサを用いた根粒老化関連遺伝子の探索

*奥平正太郎, 内海俊樹, 福留光挙 (鹿児島大・院理工)

13:15 P02 根粒老化過程で変化するシステインプロテアーゼ活性の測定

*岩佐実咲, 内海俊樹, 福留光挙 (鹿児島大・院理工)

13:30 P03 窒素欠乏条件下におけるイチゴの窒素固定細菌への応答

*坂田雅, 内海俊樹, 福留光挙 (鹿児島大・院理工)

13:45 P04 ミヤコグサにおけるクラス1植物ヘモグロビンの葉での発現

*福留光挙, 下川友太, 内海俊樹 (鹿大・理)

14:00 P05 佐賀県におけるダイズの収量低下は根粒活性の低下に起因するのか?

*吉岡明香莉, 下村彩, 鈴木章弘 (佐大・農)

14:15 P06 高窒素環境下における根形成抑制因子LOHN1のイネホモログ遺伝子の機能解析

*大森俊寿, 伊藤和洋, 射場厚, 楠見健介 (九州大・院・理)

5月24日 (日)

9:00 P07 植物寄生性線虫による根こぶ形成に関わる候補遺伝子の分子機能解析

* 亀田淳生 (熊大・院・自然科学)、神野奈穂 (熊大・院・自然科学)、澤進一郎 (熊大・院・自然科学)

9:15 P08 放線菌を用いた植物感染線虫防除の検証

* 徳永圭太, Allen Yi-Lun Tsai, 澤進一郎 (熊大・院・自然科学)

9:30 P09 シロイヌナズナの葉におけるCLEペプチド受容体の遺伝学的解析

* 與那城陽大, 吉田祐樹, 澤進一郎 (熊大・理, 熊大・IRCAEB)

9:45 P10 南阿蘇オウカン様イチョウにおける葉の形態解析

岩本拓己, * 相田光宏 (熊大・理・生物)

10:00 P11 地下結実植物サブクローバーの花柄における向地性機構の解析

* 古賀愛実 (福大・理), 南竹ひなた (福大・理), 町田聖斗 (熊大・理), 南野尚紀 (福大・理), 古谷将彦 (福大・理)

10:15 P12 ミヤコグサの根粒共生系におけるフェリチンの役割

* 岩戸完泰, 内海俊樹, 福留光拳 (鹿児島大・院理工)

10:30 P13 アサガオにおける縮咲変異の原因遺伝子の同定およびその解析

植田のの花 (九大・理学部), * 佐藤洋希 (九大・シス生), 仁田坂英二 (九大・院理)

10:45 P14 アサガオにおける短毛(*sta*)変異の原因遺伝子の同定およびその解析

* 中橋希彩 (九大・シス生), 仁田坂英二 (九大・院理)

11:00 P15 敷石葉緑体は塩ストレス誘導性のジャスモン酸応答を介し植物に塩耐性を付与する

* 山川太聖, 永井颯, 豊村凌佐, 本田智海, 小畑智暉, 射場厚, 祢宜淳太郎 (九州大・院・理)

11:15 P16 塩ストレス条件下におけるシロイヌナズナ敷石細胞葉緑体の核周囲集合運動

* 永井颯, 山川太聖, 豊村凌佐, 本田智海, 小畑智暉, 射場厚, 祢宜淳太郎 (九州大・院・理)

11:30 P17 低CO₂環境に応答した孔辺細胞内デンプン分解応答の解析およびその制御因子の探索

* 本田智海, 大隈玲央奈, 成松丈, 射場厚, 祢宜淳太郎 (九州大院・理)

11:45 P18 シロイヌナズナ変異体 *aics2* を用いた気孔CO₂ 応答の調節メカニズムの探索

* 秀野智紀, 中江聡子, 東馬場徳, 檜垣夏凜, 祢宜淳太郎, 射場厚, 門田慧奈 (九州大・院理・生物科学)

特別講演

5月23日(土) 16:40~17:40

中央図書館 多目的ホール

アサガオの遺伝資源 — 日本独自の園芸植物からモデル植物へ

九州大学大学院理学研究院生物科学部門 仁田坂 英二

アサガオは熱帯アメリカ起源の植物であるが、おそらく薬用（下剤）として人為的に世界各地へ散布されたと考えられる。日本へは奈良～平安時代に中国から渡来し、やがて観賞用として栽培されるようになった。しかし、変異体が初めて記録されたのは江戸時代に入ってからである。18世紀中頃、備中松山藩（現在の岡山県高梁市）において、内在するトランスポゾンの転移が活性化した絞り咲き系統（いわゆる松山朝顔）が見出された。この系統の普及を契機として多数の変異体が出現・記録され、栽培ブームが生じた。特に幕末に近い、嘉永・安政期には、著しい奇態を示す、不稔の多重変異体が専ら観賞対象とされ、きょうだい株から採種し分離個体を楽しむ独特の栽培法が確立された。メンデルの法則の再発見以降、アサガオは遺伝学の研究材料としても利用されるようになり、第二次世界大戦前には今井・萩原両博士により、組換え率に基づく連鎖地図が作成された。これは当時、トウモロコシに次ぐ精度を誇るものであった。戦後は研究者が減少したものの、短日条件に鋭敏に反応して花芽形成を行う特性から、植物生理学の研究にも用いられた。1956年に国立遺伝学研究所（三島）で開催された国際遺伝学会議において日本独自の材料を展示する目的で、残存していたアサガオの変異体の収集が行われた。その後も長期に渡り変異系統が保存されていたが、1993年の保存担当者の退職に伴い死蔵状態になっていた。1997年にこれらの550系統が九州大学へ移管され、その後、科技団のさきがけ21および文部科学省ナショナルバイオリソースプロジェクト（NBRP）の支援のもとで体系的な収集、保存が進められ、現在では3,000系統以上が維持されている。

私はアサガオの園芸的価値だけでなく、基礎研究に用いるモデル植物としての有用性にも着目し、研究基盤の整備や変異の原因遺伝子の同定を進めている。また多くの変異が共通の末端配列を持つトランスポゾン（*Tpn1*ファミリー）によって誘発されており、その構造や転移機構の解析も行っている。これらのトランスポゾンはゲノム中に数百コピー存在するが、転移はわずか1コピーの自律性トランスポゾンが供給する転移酵素に依存しているため転移のON/OFFのコントロールも容易である。NBRPにおいて、野生型および主要な変異を含む、代表的な150系統のゲノム解読が行われた。これらのゲノム配列を比較した結果、変異系統が共通で保持する変異が見つかった。それらは花の色素であるアントシアニン合成に関わる*DFR*遺伝子および液胞のpHを上昇させ花色を青色化する*PR*遺伝子である。これらの結果は、日本の変異系統が松山朝顔に由来する単系統であることを強く示唆する。このような遺伝的背景の単純さにより、系統間でトランスポゾンの挿入部位以外のゲノム多型が少なく、多くの場合、単にゲノム配列を比較するだけで変異の原因となっている遺伝子を同定することが可能である。これまで江戸時代に起源を持つ変異や新規に生じた変異の大部分の原因遺伝子を同定しており、その中でも特に興味深い、いくつかの変異について紹介したい。

2026 三学会合同大会（福岡）実行委員会

委員長：立田 晴記

藍 浩之、楠見 健介、高須賀 圭三、仁田坂 英二、祢冨 淳太郎、

細川 貴弘、門田 慧奈、山脇 兆史、渡邊 英博

メールアドレス sangakkai2026@gmail.com

表紙写真：福岡市西区の毘沙門山山頂から見た長浜海岸（撮影 門田慧奈）